如意輪寺

勝手明神の所で本道より分れ東の谷を渡つて上つた所にある。浄土宗、延喜中の創建南朝の勅願寺であつた。本尊は如意輪觀音。

楠正行が一族百四十三人と共に過去帳に姓名を記し、各自髻を佛殿に納め、鏃にて門扉に辭世を遺して戰場に向つたと云ひ傳へられる如意輪堂の地は庫裡の北にある。また堂の傍には正行の埋髻塚と云ふがあつて、森田節齋の髻塚の碑藤本鐵石の招魂碑などが建てある。

後醍醐天皇陵　本堂の後の高丘の上にある。

○

古陵松柏吼天飈。　山寺尋春春寂寥。　　藤井竹外

眉雪老僧時輟帚。　落花深處説南朝。

中の一目千本

如意輪寺の附近の山腹に近時多く櫻を植ゑたので花時の眺望が頗る佳い。之を「中の一目千本」といふ。

○

白雲や散る時花の吉野山　　蓼太

竹林院

勝手明神の南三町、小堀遠州の好みの庭園があつて勝景の地である。

上の一目千本

竹林院から天王橋を過ぎて猿曳坂の上から見下す東の谷を「上の一目千本」といふ。櫻花滿開の節は之亦實に美しいものである。

忠信力戰の址

この附近にある中院谷と云ふは義經の臣佐藤忠信が山僧横川覺範を討つた所と傳へられ、花櫓と云ふ所が忠信の力戰した所だといふ。

この附近に水分神社（藏王堂より南十八町、祭神は天水分神外六神、今の社殿は豐臣氏の再建）があり、尙南に上ること五町に金峰神社、蹴拔の塔がある。

○

行く秋や蹴拔の塔を散る木の葉　麥水

金峯神社の奥約四町ばかりに西行法師の遺跡の苔清水、西行庵などがあるがこの附近は卽ち「奥の千本」で吉野の櫻は此處に至つてその美を極めて居るといつてよい。之より奥は大峯山登りの本道である。

○

苔清水花かきわけて結びけり　蓼太

○

よしの山峯の白雪ふみ分けて入りにし人のあとぞ戀しき　靜

しづやしづしづの緒環くりかへし昔を今になすよしもがな　同

吉野に關する史實

吉野は此の如く我が大和民族精神のシンボルである、櫻花の勝景をもつて名高いと云ふばかりではなく、曾て神武天皇はこゝより大和に入らせられた事もあり、應神天皇は離宮をこゝに置かせられた事もあり、また南朝の諸帝が行在所とせられた事もあつて、つきせぬ史蹟は我が國民に強い感興を與へてをる。

○

み吉野をわが見に來れば落ちたぎつ瀧の都に花ちりみだる　眞淵

み吉野のさつ宮所さめ來ればそこさも知らに薄生ひにけり　宗武

和歌山市

（大阪より四〇哩、京都より奈良王寺を經て八九哩八）

和歌山縣廳の所在地、紀の川の河口に近く、人口八萬四千、南海第一の都會である。德川御三家の一たる紀伊家の城市で、その城址は南方十五町にあつて公園になつてゐる。紀州ネル、漆器蜜柑などが市より移出せらるゝ物產である。

和歌の浦　市の西南一里半にあり、靑松白砂の砂嘴海中に突出して風光明媚、奈良時代以後天下に名が聞えてゐる。

○

和歌の浦に潮みち來ればかたをなみ芦邊をさして田鶴啼きわたる　赤人

和歌の浦の眞砂や千代のありかずによむともつきぬためしなるらん　兼好

附近に三斷橋、玉津島神社、東照宮、南龍神社、紀三井寺(西國卅三番の中第二番の札所)などの名所がある。紀三井寺からの眺望が佳い。

○

故郷をはる〴〵こゝに紀三井寺花の都も近くなるらん　(順禮歌)

新和歌の浦は和歌の浦の西方に拓いた新名勝で、海上の眺望が雄大である。

橋本町　(和歌山縣伊都郡、和歌山より廿七哩三、大阪汐見橋より約二時間)

和歌山市の東方約十二里、紀の川の北の畔にあつて、高野山に登る口である。當所から高野山まで四里半、刈萱堂まで一里である。

高野山　(和歌山縣伊都郡)

伊都郡の南部數里に蟠れる山嶺で、山上を高野村といふ。そこは弘法大師が肉身入定の靈地であつて、本邦屈指の大伽藍金剛峰寺のある所である。寺は眞言宗古義派卽ち高野派の總本山である。

當山に登る口は七ヶ所あるが、橋本から登るのと高野口から登るのとが便利である。橋本口一に京口とも云つて、京阪地方から參詣するものは多くこの道による。南海高野電車で橋本へ至り紀の川を超えて學文路へ行く。

學文路

學文路(禿)こゝから山上の女人堂まで二里十九町ある。この間峻阪險路多く、徒歩でなければ山輿によつて登るのである。學文路には石童丸の遺蹟として名高い苅萱堂がある。女人禁制の掟のために母を玉屋旅館に止めおいて、石童丸は唯一人こゝから登つたと云ふことである。途中に神谷と云ふ所がある。旅館酒亭など澤山あつて賑かな所である。

女人堂

神谷から極樂橋を渡つて、不動阪、岩不動、袈裟掛の櫻、稚兒ヶ瀧、花折阪などを過ぎ、女人堂に行く。

高野山は古來女人の寺門に入る事を嚴禁してをつたため、登り口の七ヶ所に各女人堂を設けて、そこから遥拜せしめたものである。高野口から登るものは驛から南へ十町ばかり行つて紀の川の渡へゆく。こゝを渡れば九度山である。

九度山

九度山には慈尊院と云ふ寺があるが、弘法大師の母君が閑居した所で、寺内にその墓がある。九度山と云ふは昔眞田昌幸が住居した所で、此の地で歿したため、墳墓や寶塔などがある。その子幸村は大阪方の軍師となつて徳川勢を苦しめたものである。眞田紐は父子がこゝに退隱中生計の資に造り始めたものであると傳へてをる。

こゝから椎出村を過ぎて神谷にゆけば、學文路から來た道と合する。

大門附近

女人堂を過ぎて大門を入れば金剛峯寺の境内になる。平坦な廣い所で東西に大路があり、銀行郵便局、警察署などもあり、佛具經卷または繪葉書などを賣る店が軒を並べてをつて、大きな門前町をなしてをる。

壇場附近の堂塔

大門から十五町ばかりゆけば壇場が北側にある。これは一山の靈地として尊崇せられてをる所である。

中央に大塔がある。天保年間に一度炎上したゝめ、今は舊觀に及ばない。傍に金堂がある。金堂は萬延元年に再建したものであるが、二層の高閣で高さ二十五間、十四間四面、本尊は藥師如來、脇士は金剛薩埵金剛王不動明王である。内外の裝飾は善美を盡したものである。

金堂を中心として、御影堂、鐘樓、六角堂、大會堂、西塔、東塔址、灌頂堂、准胝堂、三昧堂孔雀堂、寶藏、三鈷松などがある。

本坊

壇場の東二町ばかりの所に金剛峯寺の本坊がある。一山の首腦地で、教務講學の事一切を司

る所である。弘法大師の像を安置してある。本坊の柳の間は豊臣秀次が自刃した所である。

奥の院

茲から奥の院まで十八町あるが道は平坦である、杉檜の古木が晝尙暗く聳えてをる。その間に大小幾多の墓石が立並んでをる。途中に細流があるが、これ和歌に名高い六玉川の一の「高野の玉川」である。御廟橋こ云ふのが架してある。これを渡れば大師の廟前である。

○

散る花にたぶさ恥ぢけり奥の院　杜國

忘れても汲みやしつらん旅人の高野の奥の玉川の水　空海

廟は弘法大師現身入定の地で、拝殿、燈籠堂などがある。奥に納骨堂がある。幽閑靜寂の地である。

當山は、弘法大師在唐中、寳器三鈷杵を携へて東の海を望み、「我が法有緣の地に到つて留るべし。」こ云ひ、空中に投げた所、當山上の巨松に懸つたので、歸朝後當山鎭護の神の丹生明神の案内でこゝへ來、後勅許を受けて、大伽藍を建立したものであるこ傳へられてゐる。

坊のある所は西院谷、南谷、谷上、本中院谷、小田原房谷、往生院谷、蓮華谷、一心院谷、五光室谷、千守院谷などに分れてをる。

當山に宿るものは、旅館がないので坊舍に宿る定めである。しかし各坊とも旅館こ異なる事なく懇切叮嚀である。ただ魚肉のないのが遺憾であるが、當山獨特の精進料理は實に珍味なものである。

旅人は緣故ある坊に宿る例であるが、別に緣故などが無ければ參詣人調所に國を告げればその

所屬の坊に宿ることが出來て、同鄕の人々とめぐり會ふ事が出來る。

當山の名物は、陀羅尼助、萬年草、高野槇、榧油、高野豆腐などである。

大阪神戸方面

大阪市

（東京より三五三哩二）
（京都より二六哩八）

大阪府の一市。本邦第二の大都會、攝津の南東部、所謂大阪平野の中心にあつて淀川の三角洲の上に出來た市街である。面積四方里弱、人口百廿五萬、東西南北の四區に分れ町數九百を越えてゐる。

大阪は商業の都會である。銀行問屋の多き船場（東區）や、商店の櫛比せる島の內（南區）を見るならば如何に金融が圓滿であるか、商品取引が活潑であるかが分るであらう。中でも淀屋橋通、心

齋橋通が最も繁昌を極めてゐる。

その顧客は内地全體であつて、舊幕時代から西部日本に覇を唱へてゐた商權は近時益々發展し今や北日本に於ても東京を壓してその上に出でんとしてゐる。貿易も著しく發展し輸出入額に於て横濱神戸に次ぐの盛況を見るに至つた。

大阪は工業の都會である。その發達は最近に屬するけれども、工業會社、諸工場の多きは驚くべき程で、煙突の林立せる、煤煙の濛々として全市を蔽へる、誠に「煙の都」の稱あるも尤もである。その工業は殆ど皆機械工業で、製産品の主なるものは綿絲、綿織物、燐寸、硫酸、莫大小硝子等で、造船業製鐵業も亦盛んである。

大阪は水の都である。又橋の都である。市内には淀川木津川をはじめ大少の河溝縱横に通じて直に西南なる大阪灣と接續し、舟楫の便が至つてよい。その川の數實に四十五條、之に架せる橋梁は大小併せて五百に近く、市内の風致と交通はこの河川と橋梁とによつて大に助けられてゐる加ふるに各地と連絡せる鐵道及び電車、市内の電車及び乘合自動車の發達は、商業工業の隆盛と相俟つて大阪市の偉觀をなしてゐる。

○

○大阪の名物は橋と煙突となり。○大阪自慢の一は義太夫なり。○大阪兒は實行の民なり。○大阪は昆布の都なり。○大阪は廣告の都なり。○大阪は沒趣味の處なり。○東京が晝の都なれば大阪は夜の都なり。○大阪は分量主義なり。○大阪は海の都海運の都なり。○專門街の多きは大阪の特色なり。○大阪は商業魂の坩堝なり。日本人若し大阪魂化せば日本は大に富まん。若し士魂商才を以て將來日本人の理想とせば商才は則ち大阪魂ならざるべからず。（「新人國記」拔萃）

市内で見るべき所は。

大阪城址（東區、大阪驛東南一里餘）その構造の大體は豐臣氏築造の舊と傳へてゐる。大石を用

ゐた石垣の雄大なる、攝河泉を見晴らす天主閣の遺址等豐太閤の遺業を偲ぶに十分である。今陸軍省の所轄で第四師團の司令部がおいてある。

四天王寺（南區、同東南一里廿町餘）聖德太子の創建せられた寺で、建築は新しいが、その配置は飛鳥時代の七堂伽藍の制によつてゐる。附近に天王寺公園、新世界等の遊樂地がある。

生國魂神社（東區、同東南一里十町餘）市内第一の大社で、官幣大社である。

高津神社（東區、同右）仁德天皇を祀る。社地は仁德天皇の高津の宮の地である。「高き屋に上りて見れば」こ平安時代の歌人が聖德を讃へた天皇の事蹟はこの宮でなされたのである。

道頓堀（南區、同南一里餘）名ある劇場は此處に集つてゐ、諸興行物で賑ふ千日前はすぐ南に接してゐる。

造幣局（北區、東廿七町）

築港、天保山燈臺（西區、西南二里十町内外）築港の先端に近く巨大なる市立運動場があり、大正十二年には第六回極東オリンピック大會を此處で開いた。

堂島（北區、同南七町）江戸時代より米穀の取引の行はれた所で、河水四周して島の形をなしてゐる。大阪朝日新聞社、大阪毎日新聞社はこゝにある。官衙、學校、會社等の多く建つてゐる中の島は堂島の南に並んでゐる。中の島公園は此處にある。

堺市

（京都へ十四里、大阪へ三里半、奈良へ十二里、和歌山へ十四里）

大阪府第二の都會で人口八萬四千九百餘、南海鐵道の沿線で、又高野線の分岐點になつて居る。もこ堺浦こ稱する一寒村であつたが、足利義滿の時山名氏淸此の地を賜うて城を築いた。後大内

氏、細川氏等之を襲いだが、織田氏の頃には唐船、蠻船が來るので日本一の繁榮を呈した。が德川氏の始めに五港が定められて以來他に劣るに至つたけれども、今猶輸出入港として商業が中々活潑である。

此の地昔は絹織物の業が非常に盛であつた。天正の頃には錦・金襴・紗・縮緬等を盛に織出したのである。併し西陣織の發達につれて壓倒せられ元祿の頃には全く跡を絶つて、今では緞通・綿小倉・厚司の類を産するに過ぎぬ。

此の地又鍛工多く、殊に刄物は有名で、鋏だけでも年額八萬圓を下らない。昔は鳥銃を盛んに製造したものである。市内の名所は左の數箇所である。

常樂寺　仁壽二年慈覺大師の草創。維新の際廢寺となつて今は梅林となつてゐる。境内に笠松・影向梅・和泉式部塔等がある。

少林寺　寺内に稻荷の祠がある。昔白藏主の尊信したもので、狂言釣狐の由緒ある祠だといふ。それで此の狂言には必ず此の寺に生ずる竹の杖を用ゐるのださうな。

妙國寺　永祿五年僧月珖の草創。今の殿堂は寛永四年に僧日現の再建したもの。境内の大蘇鐵は幹長三間大枝二十三本。四百年前に三好之康が植ゑたのである。

祥雲寺　臨濟宗。澤庵和尚の草創境内に大きな五葉の松樹があるから松の寺ともいふ。之は豐臣秀吉愛玩の盆栽を植ゑたのださうで、奈良の花の松(興福寺境内)と京都の松の寺の臥龍の松と共に三絶と云はれる。

南宗寺　臨濟宗。三好長慶の發願、澤菴和尚等再建。境内に牡丹花肖柏・武野紹鷗・千利休・曾呂利新左衛門等の墓塔がある。庭園が奇麗で、中に利休の茶室がある。

寶珠院　明治初年に佛人を殺害して切腹を命ぜられた箕浦元章以下の石碑がある。

大濱公園　市街の西南部海岸一帶の地が其である。海上の眺望がよく、殊に觀月に適して居る。又海水浴場として夏期は非常な賑ひを呈する。

濱寺　（和泉國泉北郡濱寺村　大阪難波より約九哩）

濱寺は大雄寺の俗稱である。大雄寺は元弘年中に僧覺明の開基で、當時は立派な寺であつただらうが、今は濱寺といふ村名が殘つて居るだけである。此の村の船尾から同郡高石村大字今在家に至る間を濱寺公園とし、岸には數千の古松あり、濱は一帶の細砂で頗る景色がよい。今旅館旗亭等が立竝んで、海水浴場として夏期の賑ひは非常なものである。

四條畷神社　（大阪府北河内郡甲可村、片町線四條畷驛の東八丁）

楠正行和田正時を祀る。別格官幣社、明治廿二年の創建。

正平三年正月高師直師泰兄弟、その主足利尊氏の命をうけ六萬餘の兵を率ゐて、河内より吉野の行在所を衝かんとす。正行、正時の兄弟、後村上天皇に命ぜられて、之を河内に防ぐ。率ゐる所の兵僅かに三千騎。進んで四條畷（神社の南一里半―中河内郡牧岡南村に地名が殘つてゐる）に戰ひ、鋒を交えること卅餘度、向ふものは悉く擊破して、あはや師直を獲んとしたが、不幸にして之を逸し、從ふもの殆ど殲き、己等亦傷きて又起つ能はざるに至り、兄弟刺違へて死し、楠木一族の殘れるもの卅餘名は同じ枕に殉死して、楠木、和田の兩氏殆ど盡く。之より吉野朝の

勢復振るはざるに至つた。その壯烈なる最期は太平記に委しく、讀むものをして奮起せしむる。神社のある所は正行兄弟の戰死した場所である。正行の墓は驛の西四町の田畝の間にある。

片町線の沿道

四條畷驛は木津驛より一九哩九、片町(大阪市北區)より八哩二。片町線は片町木津間に十二驛あるが、驛附近の注意すべきものを擧げると。

田邊(木津より七哩七)驛の西七町に一休法師の入寂した寺がある。一休寺といふ。

長尾(木津より一一哩七)驛の東南四町に、百濟の博士王仁の墓がある。

野崎(木津より一〇哩八)淨瑠璃「新版歌祭文」の「野崎村の段」で名高くなつた所。

神戸市

(京都より四七哩一
大阪より二〇哩三)

六甲山脈は市の北境に長く東西に連なり、摩耶山、再度山、鷹取山の連峰高く聳え、南一帶は大阪灣に面し、遙に淡路島と相對してをる。

人口六十萬餘、兵庫縣では第一、本邦では第三の大都會であり、また本邦唯一の輸入港である。

市はもと神戸村と云つた一漁村であつたが、幕末兵庫開港と共に外國貿易市場となり、追々市の發展を來し、殊に歐洲戰亂當時よりは非常に急激な膨脹をなし、最近須磨附近まで市に合併して今日の大神戸市をなすに至つたものである。

市の此の如き大發展をなすに至つた原因は市の港灣が稀に見る良好な地形にあるからである。和田の岬は南方に突出して瀬戸內に荒れる風浪を遮り、灣內の水はいつも靜平を保つてをられる。また川崎は中央に突出して兵庫港と神戸港とに區別してをるが、何れも波浪をふせぐ便利を與へてをる。最近には十數年經續してつくり上げた築港も完成し、歐米の港市に比して劣つてはをらないのである。ために出入の船舶は年々加はり、外國人の居留するもの年と共に多きを加へ、近き將來に於て人口百萬に達することと期して待つべきである。市に於ても相當の準備計劃をなし市區の大改正を行ひ、水道電車電燈等何れも完全を期してをる。

當市の重要輸出品は玄米、綠茶、樟腦、重油、鯨油、銅、麥稈眞田、燐寸等で、輸入品は米、小麥、大豆、砂糖、羊毛、毛織物類、鐵板、鐵竿、染料などである。市の名物としては但馬地方から來る牛で、神戸牛肉として名高い。その他瓦煎餅、鷹次郎飴、玉簾などである。

湊川神社　神戸驛の北一町ばかりにある別格官幣社で明治五年の創建である。今日大に境內を改築し、一層神威を增さんことにつとめてをる。

社の南隅に水戸光圀が「嗚呼忠臣楠氏之墓」と題せる墓標がある。世に有名なるもので裏に朱舜水の撰文がある。楠公社から東に約三町ばかり往けば元町通に出る。市の目貫の場所で外國商品を販賣する店軒をならべ美しい通りである。元町通りの南は榮町通で外國商館銀行會社軒をならべ貿易の中心地である。榮町通りの終る所にメリケン波止場がある外國通ひの汽船發着場である。

メリケン波止場の東は元居留地で、神戸稅關の大建物があり、外國の領事館立ち並び、ホテル外國人經營の會社代理店などが集つてをる。

元居留地には東遊園地がある。外國人の專ら遊ぶ所である。

東遊園地から北に進めば布引瀧がある。生田川の水源で、麓から二町ばかり登れば雌瀧がある。高さ七丈三尺幅は一丈二尺、瀑前に長廊があり、茶店もあり、觀賞に便利である。夏の夕こゝに來れば、「カジカ」は鳴き谷深く樹木は茂り、夕涼みを樂しむことが出來る。雌瀧から尙四五町登れば雄瀧がある。高さ十五丈幅は一丈三尺ある。それより尙ほ登れば神戸水道の一部布引貯水池がある。貯水池の附近風景勝れ日曜日には散策に來るものが多い。

布引瀧から西南に下れば生田神社がある。

生田の森 の舊址で、神功皇后攝政元年の創建で、稚日女尊を祀つてある。官幣中社である。梶原景季が箙に挿んで戰場に出で美名を傳へた梅の古樹、梶原井等が境內にある。

生田神社の西北に諏訪山がある。

諏訪山 は再度山の南麓であるが市內唯一の展望地である。諏訪山鑛泉は南隅にある。山上に佛人の建てた金星觀測臺がある。附近は花隅と云つて紳商連の別莊地である。再度山と云ふはここから登ること三十町、山上に大龍寺と云ふのがある。古義眞言宗で大師堂がある。本尊は大師作の觀世音菩薩である。大師入唐の前と後と二回登山したので再度山と云ふ。

諏訪山の西南市の中央に大倉山公園がある。

大倉山はもと大倉氏の所有地であつたが市に寄附したもので、市の中央に橫はる丘陵である。もと墓地であつたのを、今は全部改築し大運動場を設け、市內唯一の好散策地である。

大倉山の南麓に楠寺がある。

楠寺は本名廣巖寺。建武三年楠木正成敗衄して一族七十三人と共に當寺に逃れ客殿で自盡した。それから楠寺と稱し楠氏の香華院となつた。楠氏の遺品が多い。楠公社は當寺の境內にあつたものである。

安養寺は楠木寺の東にあつて天暦年間の創建、淨土宗である。

楠公神社から西に約一町往けば舊湊川の址に出る。こゝは新開地と云ひ、市内第一の賑盛地で劇場、料亭軒をならべ、日夜往來の絶えない所である。新開地の北は湊川公園と云ひ遊歩場でその北に勸業館がある。

新開地の南に川崎造船所がある。川崎造船所は本邦屈指の造船所で規模壯大諸種の器械は完備してをり職工は一萬人に及んでをる。明治三年創設した鐵工廠がもとで後造船所としたものである。

この地は湊川の三角洲で川崎と稱してをる所であるが、湊川は鳥原の山奥より流れ出し、平野にて天王川と合し、會下山を隧道で流れ、和田岬の西に出で駒林にて海に注いでをる。

楠正成が足利勢と戰ひたる所は會下山の西南現今第二中學校のある附近である。即ち今日の湊川は楠正成時代の湊川と同一場所を流れてをるのである。新開地方面の湊川址は三百年前一旦この地方に移されたもので、今より十數年前もとの湊川に復歸したわけである。

平清盛塚　兵庫南逆瀨川眞光寺境内にある。養和八年に清盛西八條に死し僧圓實がこゝに遺骨を埋葬したものであると云ふ。弘安九年北條貞時の建てた二丈六尺十三層の石造寳塔がある。

平經政に墓清盛塚の側にある。經政は琵琶の妙手であつて一の谷で戰死した。一に琵琶塚とも云ふ。

清盛塚附近は福原宮の遺址であると云ふ。

經島　今の中の島の邊で築島とも云ふ。もとは海であつたが清盛が舟楫の便を圖らんとして築いたもので、石面に一切經の文字を書いて用材にしたから經ヶ島とも云つてをる。俗説には修築工事の際屢々工を起しても成らぬので、人柱を立てゝ海神に捧げんとして、生田の森に關を設け

旅人を捕へて人柱となるべき人を求めたとき、松王と云ふ一少年自ら進んで人柱となり、つひに峻功したのであると云ふ。附近に松王人柱石と云ふのがある。

附近には平氏一門の墓多く、平經基の墓は佐比江町にあり、平知章の墓は西尻池町にあり、平忠度の墓は駒ケ林にあり、平盛基の墓は長田明泉寺にある。平通盛の墓は夫婦池の畔にある。

萱の御所の舊蹟は逆瀬川町元大藏省の米廩構内にあつて、清盛が後白河法皇を幽閉し奉つた所である。

和田岬　に和田神社がある。天御中主神を祀つたもの海上鎭護の神として名高い。附近に遠矢ケ濱がある。足利尊氏九州から再び攻め上つた時官軍に向つて遠矢を射、味方を驚嘆させたと云ふ太平記に名高い故蹟である。

須磨　（京都より五〇哩一 大阪より二四哩九）

鐵拐峯、鷹取山、鉢伏山等は北につらなり、南は直に海につづき、明石海峽の東口をなしてをる。町は道路に沿ひて東西につづき、北に須磨寺遊園地があり、内に須磨寺がある。附近一帶に風景勝れ氣候適和で海氣淸爽、避暑避寒に適し、轉地療養地として好良な所である。

○

似合はしきけしの一重や須磨の里　　杜國

見渡せば眺れば見れば須磨の秋　　芭蕉

須磨寺　本名福祥寺、仁和二年の開基で、本尊は聖歡音。境内に義經腰掛の松、若木の櫻、義經

首實見の場・敦盛の首洗池などがある。寳物の中青葉の笛、敦盛の筆蹟、母衣絹の名號等は殊に名高い。

○

乘る駒の足音に蝶ぞ亂れ飛ぶ春風四月須磨寺の道　信綱

須磨の古關趾は須磨寺附近である。

松風村雨の遺跡は驛の東北十五町、東須磨と西須磨との間に俗の菖蒲小路と云ふ所にあつて、中納言行平この地に寓居したとき松風、村雨と云ふ二少女を寵し憂き住居の徒然を慰めた所であると云ふ。

綱敷天神　須磨海岸にあつて菅公を祀る。道眞が太宰府に謫流の途中この濱に上陸した時、漁者が纜を圓座に代へて進めたる故それに座して暫時憩はれた所であると云ふ。

一の谷の古戰場　西須磨の海岸に一の谷二の谷三の谷と云ふ淺谿があるが、一の谷は源平合戰の中心になつた所、谷の廣さ二十間、高さは十二間谷の長さは六十間ばかりある。谷の上に安德天皇の皇居の跡がある。

鵯越　鐵拐峯の北にあつて、神戸市夢野より登ることが出來る。今は遊園地になつてをる。

敦盛塚　三の谷の西一町ばかりにある。高さ一丈程の五輪の石塔がある。俗に敦盛の墓と云ふが、實は北條貞時の建てた平家一門の追弔の碑である。附近で名物の敦盛蕎麥を賣つてゐる。

神戸市は東は春日野脇ヶ濱から西は須磨に及ぶ大市街であつて、源平時代或は足利時代の史蹟に富むばかりでなく、氣候溫暖で健康に適し、且つ海濱近く山岳をめぐらし、風光絕佳避暑避寒に適しまた市は商業貿易港市として將來益々發展の餘勢あり、今後愈々膨脹して東は西の宮御影を合し西は垂見鹽屋方面の連續するも近きにありと思はれる。

伊勢方面

參宮の沿道

京都から伊勢參宮するには、京都驛より山田驛へ直通する汽車によるのが便利である。直通汽車は京都驛から東海道本線で草津驛（一三哩九）に至り、草津から草津線を經て關西本線の柘植驛（草津線全長二二哩六）に至り、更に關西本線で龜山驛（柘植龜山間一二哩四）に至り、それより參宮線で山田驛に至る（龜山山田間三五哩七）

途中經過する驛が、廿六、その中注意すべきものを記すと、

草津　東海道本線と草津線との分岐點、昔の東海道と中仙道との分れる所である。名物に「姥が餅」がある。

貴生川　草津線の驛で、近江鐵道の分岐點である。多賀神社參詣、永源寺の紅葉見物に行くものはこの線によゐ。

柘植　草津線の終點、俳聖芭蕉翁の生れた所。

關　關西本線の一驛、東海道五十三次の一である。往昔の鈴鹿關はこの地に置かれた。東海道の有名な峠鈴鹿山は驛の西北一里半にある。「關の地藏に振袖着せて奈良の大佛婿に取ろ」と唄はれた地藏は驛の西北四町の寶藏寺といふ寺にある。

龜山　參宮線はこゝで關西本線から分岐し、鳥羽まで行つてゐる。四四哩五、こゝも東海道五十三次の一であつた。

一身田　以下皆參宮線の驛である。眞宗高田派の本山專修寺は驛の東二町にあつて、車窓から

本堂その他の屋根が見える。

津　三津の一として上古より名を知られ江戸時代には藤堂氏三二萬石の城市として「伊勢は津でもつ」と俗謠に謠はれた。今三重縣廳の所在地、伊勢第一の都で南北一里二十町餘に亙る長い町である。城址は市の中央にあり、公園は藤堂氏の別墅の跡で風光明媚である。

阿漕　阿漕浦は驛の北東十三町、海水浴場として夏時來遊するものが多い。漁夫平次が母の病を醫さん爲殺生禁斷のこの浦に網を入れた罪によつて刑せられた傳説は謠曲「阿漕」に記されこの傳説に因んだ阿漕塚は驛の東北十町の所にある。南朝の忠臣結城宗廣を祭つた結城神社は別格官幣社で驛の東南十二町にある。

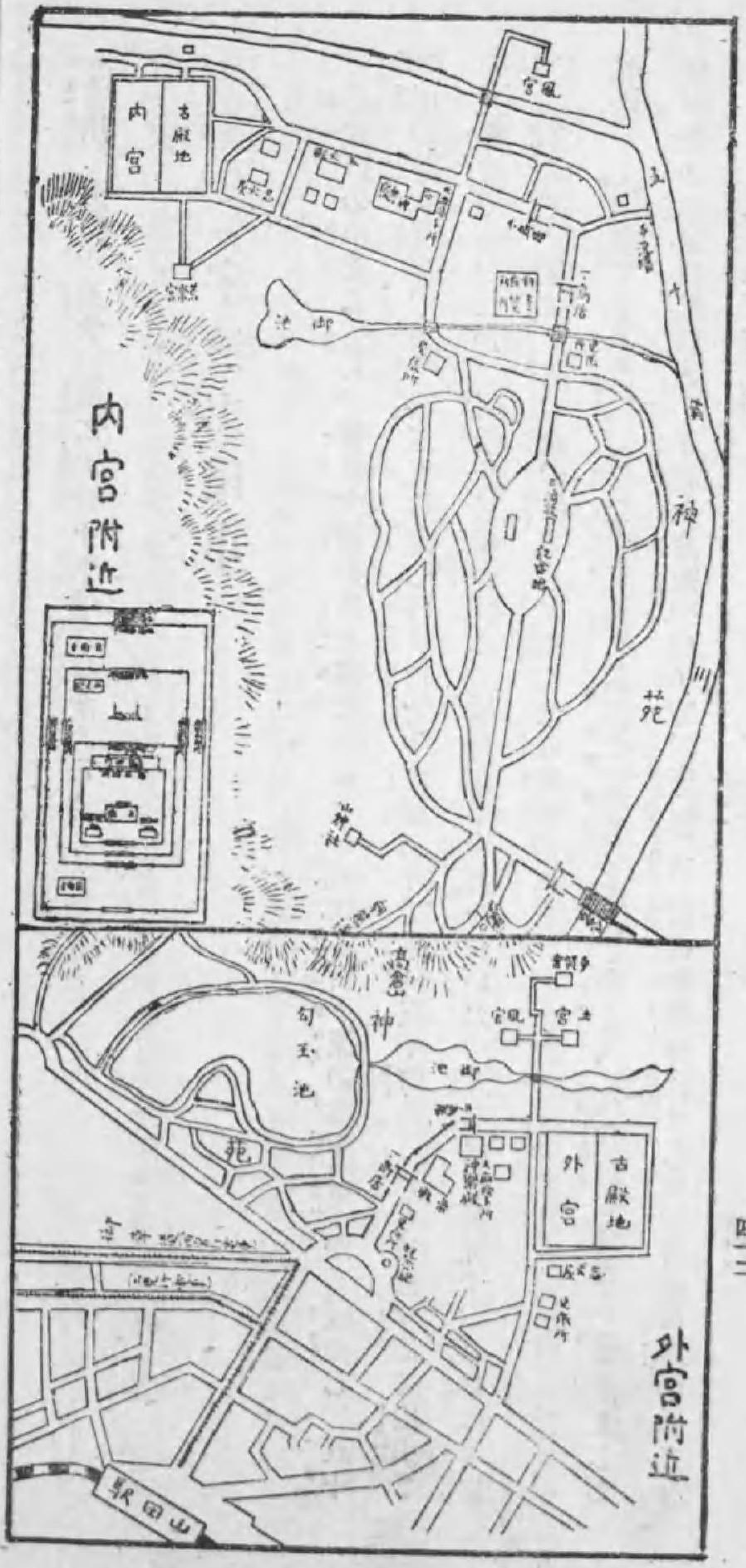
松阪　國學の大家本居宣長の生地で、その住宅は原形のまゝ公園(驛の西七町)へ移して、保存されてゐる。

宮川　驛の北東廿二町に明野ヶ原飛行場がある。

宇治山田市

三重縣の中部に位し、伊勢大廟の所在地である。市街は宮川下流の右岸(東)から迂曲して五十鈴川の畔に及び、延長約二里に達し外宮内宮の距離だけでも約五十町ある。もとは宇治と山田との二都會であつたが、明治廿二年合併し、同卅九年市制を布いた。人口は三萬九千、産物は春慶塗、宮木箸、篠笛、茶、傘、等で、名物には赤福餅がある。

外宮　山田驛より五町、豐受大神を祀り豐受大神宮と稱し奉り、高倉山の西麓に鎭座まします。此の神は伊弉諾尊の子和久産靈神の子で、天照大神の御饌津神として、百穀發生のもとを



司り、天下の人民に衣食を給與したまふ神である。天孫降臨の時より丹波國に鎭座あつたのを雄略天皇の御代に此の地に遷し奉つたので、朝廷の崇敬は古來殆ど皇大神宮と均しく、齋宮はこの宮にも奉仕せられたのである。

正殿は神明作りで南面し、四重の御垣の内に立ち神代のまゝの白木造り長さ三丈三尺餘廣さ一丈九尺高さ二丈一尺餘、萱葺、掘立柱、千木・鰹魚木等の構へも神々しく尊い。

○

豊うけの神のめぐみの露なくば世の人草は枯果てなまし　　英　　積

古神殿、御垣等の改造は時を定めずして行はれたが、天武天皇の御代から、二十年一度の制となり、隣地に境域を定めて二十年毎に改造し、移轉せられることゝなつた。之を正遷宮といひ、持統天皇の御代に始めて正遷宮があつて以來五十七回に及ぶといふ。來る大正十八年には第五十

八回目の正遷宮が行はるゝ筈である。

神苑は北御門口より高倉山(南)に亙る廣大の面積を占め、各種の樹木妍を競うてゐる。

外宮より内宮に至るには舊道新道の二つがある。新道は明治天皇御參拜の爲に築造されたもので、明治四十三年竣成した。新道に沿うて電車が通じてゐる。舊道を行けば殆ご町家續きで、古來名高い間の山、古市なごを通るのである。新道は平坦で倉田山の東を迂曲してゐる(四十八町)ので稍遠い。

内宮　正しくは皇大神宮ご申す。天照大神を祀る。御靈代は八咫鏡である。相殿こして東座に天手力男神、西座萬幡豐秋姫命(天忍穂耳尊の后)を祀る。天孫降臨の時より世々同牀共殿に奉安し給うたが、崇神天皇の御代大和の笠縫邑に移し祀り、垂仁天皇の御代神宮を此の地に創め皇女倭姫命をして奉祀せしめられ、爾來千九百餘年を經て、神威愈々驗である。社殿は南面して神路山に向ひ、五十鈴川に臨み、その結構は大體外宮ご同じく、遷宮の制亦外宮ご同じであるが、たゞ著しきは千木の形、鰹魚木の數が違うて居るここである。

五十鈴川　一名御裳濯川。二源ありて一は神路山の南嶺より、一は志摩國境の逢阪山より發して神宮の南を繞り、神宮の西南に至りて相合し、屈曲しつゝ北流して二見浦に行つて海に入る。長さ約四里。上流には奇勝が多い。

○

御裳濯の岸の岩根によをこめてかため立てたる宮柱かな　西行

神風や五十鈴の川の宮柱いく千代すめご立はじめけん　新古今集

さゞれ石の巖さならん末までも五十鈴の川の水は濁らじ　明治天皇

神路山　皇大神宮の南方に峙ち、鬱蒼たる山地である。

○

ふかく入りて神路の奥を尋ぬれば又上もなき峰の松風　西行

神苑、神宮の西より北に廣がりたる廣大の地域で、五十鈴川の清流を帶び、幽邃清雅、宇治橋を渡つて參路を進めば、古杉老檜天を蔽うて、木の下風は神代ながらの響をつたへる。一の鳥居を入りたる左右に祓場、參籠所がある、二の鳥居を入りたる左手に大麻授與所、御神樂殿、五丈殿、修祓場などが斷續して立並んで居る。

神宮司廳（宇治山田市中之切町、舊道宇治橋の手前二町にある）。明治廿九年の創置で、神宮の祭祀、造營等の事を司り、神宮皇學館、神宮文庫を管轄し尚暦本の發行をも掌つてゐる。

徵古館　農業館と共に倉田山にある、明治四十二年新築、神宮の寶物をはじめ、神宮に緣故ある古器物圖書、並に歷史文物の沿革を徵すべき資料を陳列してある。

農業館　明治廿四年の建設で、農產水產牧畜工藝に關する器具標本製作品模型統計など、其の數一萬點餘を陳列してある。二館いづれも神宮に參拜するもの、是非とも一覽すべき所である。

二見ケ浦

（三重縣渡會郡二見町の海岸、山田驛の東北四哩、山田から電車も通じてゐる）

白沙青松海岸に連り、遠くは伊勢の海を隔てゝ三河の伊良胡崎駿遠參の諸山を望み、風光明媚遊覽及び海水浴の絕好地である。有名なる夫婦岩は町の東北方の岸を去る十數間の海上に立つてゐる。兩岩の間に注連繩を張つてあるのは沖約十町の海上にある興玉明神を拜する爲である。俗に二見浦の初日出と稱するは、早朝、海上の日出をこの兩岩の間を通じて拜することをいふのである。

波越すと二見の松の見えつるは梢にかゝる霞なりけり　西行

○

鳥羽　二見浦驛より東四哩八、參宮線の終點、もと志摩國に屬し稻垣氏の城下であつた。今は三重縣志摩郡に屬する町で郡役所の所在地である。伊勢灣口の良港で、前面海上に答志、菅、坂手等の諸島を控へ、水深く波靜である。鳥羽城址は驛の東南五町九鬼氏の舊地で、こゝに登れば港内總てを俯瞰することが出來る。その北の海岸に鐵工所があつて、造船業を營んでゐる。日和山は驛の南三町、山上に無線電話局がある。山上は舸子日和を見るの地として名高い。よく晴れた秋の日には遠く駿河の富士山まで見えるといふ。鳥羽灣の風光を賞するに尤も好きは樋の山公園で驛の南十三町にある。

各學年遠足地及旅行地割當表

學年＼月	四月	五月	六月	九月
本科第一學年	比叡山登山セザル者ハ上下賀茂植物園	桃山御陵　御香宮	須磨又ハ明石、舞子	黒谷　眞如堂　銀閣寺　如意ヶ嶽
同第二學年	同上	木幡　宇治	同上	北野　平野　金閣寺　等持院　龍安寺　仁和寺　妙心寺
同第三學年	同上	粟生　長岡　天王山	同上	廣澤池　大覺寺　清涼寺　二尊院　野々宮　龜山　天龍寺　嵐山
同第四學年	同上	琵琶湖廻リ	同上	泉涌寺　東福寺　稻荷山
同第五學年	同上	笠置	同上	發電所　水源池　南禪寺　永觀堂　若王寺　吉田神社
專攻科第一學年	同上	法隆寺	同上	詩仙堂　赤山神社　三宅八幡　松ヶ崎
專攻科第二學年	同上	四條畷	同上	石清水八幡宮

十月	石山 三井寺	奈良	神戸 須磨	堺 濱寺	伊勢參宮	彦根 八日市	畝傍 橿原
十一月	高尾 槇尾 栂尾	愛宕山	鞍馬寺 貴船神社	山科 日野	八瀬 大原	阪本 日吉神社	保津川下リ
二月又ハ三月	動物園 日出新聞社	川島織物工場 工業學校 織物陳列館	本派本願寺 郵便局又ハ陶器試驗所	府廳度量衡試驗所 消防署、西陣電話局	桃山御陵 兵營	專賣局 博物館	託兒所 施療院 測候所

…殿、玄關 …ノ命堂 御影…	…ノ勅使門、…ノ方丈	…盛、色彩ト彫…ク飾リトス、發達ス・ソノ…雅・現存セル…寺ノ飛雲閣、…舞臺、時雨亭、傘亭	…起ル、現存セ彦根城、桃山…ノ宮唐門、西…唐門、豐國神…、都久夫須麻
現存セルハ…		織麗トナル、現存セルハ 桂離宮、修學院離宮、大德寺ノ孤蓬庵、劇場建築起ル	前代ヲ承ク 現存セルモノ多シ

十月	十一月	二月又ハ三月
石山 三井寺	高尾 槇尾 栂尾	動物園 日出新聞社
奈良	愛宕山	川島織物工場 工業學校 織物陳列館
神戸 須磨	鞍馬寺 貴船神社	本派本願寺 郵便局又ハ陶器試驗所
堺 濱寺	山科 日野	府廳 度量衡試驗所 消防署、西陣電話局
伊勢參宮	八瀨 大原	桃山御陵 兵營
彦根 八日市	阪本 日吉神社	專賣局 博物館
畝傍 橿原	保津川下リ	託兒所 施療院 訓[illegible]所

日本建築各時代ノ特徴及現存建築物表

（本案內ニ記シタルモノヲ擧グ）

時代 / 種別	主ナル種別	寺院	神社	宮殿	住宅	城廓
飛鳥時代	寺院	平地上ニ左右均齊ノ配置ヲナス。七堂伽藍ノ制備ハル。建物ハ石壇上ノ礎石ノ上ニ立ツ。柱ニフクラミアリ。床板ナク、軒ハ上ニ反リテ深シ。間口ノ割ニ高サ少ク落チツイタ感アリ。木材ヲ丹塗ニシ瓦ニテ屋根ヲ葺ク。高雅雄健ノ感アリ。現存セルハ法隆寺ノ金堂、五重塔中門、歩廊。法起寺ノ五重塔 法輪寺ノ五重塔	太古ハ神社、宮殿、住宅ノ區別ナシ、コノ時代迄ニ發達セルハ 大社造 大鳥造 住吉造 神明造 何レモ植物的材料ヲ用ヒ、直線的ニ建築ス。			
奈良時代	寺院、宮殿	配置位地構造略同ジ。柱ノフクラミ稍減ズ。内部ノ裝飾發達ス。堂前面ニ間ヲ明放シトス。雄大壯麗ヲ極ム。現存セルハ法隆寺ノ夢殿、傳法堂 藥師寺ノ東塔、唐招提寺ノ金堂、講堂、海龍王寺ノ西金堂、新藥師寺ノ本堂、東大寺ノ三月堂	同上	宏壯ナル建築多シ、ソノ風未詳。		
平安時代	寺院、寢殿	山中ニ建ツルコト始マリテ配置自由トナル、周圍山川ト釣合ヲ圖ル柱稍細クナリ、フクラミ無クナル。床板ヲ張リテ内外陣ヲ分チ、緣ヲ附クルコト始マル檜皮葺始マル、高サ稍加ル、優雅繊麗。多寶塔、阿彌陀堂ノ建築起ル、内部ノ裝飾密トナル、現存セルハ法隆寺ノ講堂、鐘樓、石山寺ノ本堂、大原ノ極樂院、平等院ノ鳳凰堂、法界寺ノ阿彌陀堂、醍醐寺ノ五重塔、藥師堂、廣隆寺ノ講堂	春日造 流造始マリ曲線ヲ屋根ニ加フ、八幡造、日吉造始マル樓門、瑞垣作ラル、現存セルハ宇治上神社ノ本殿、春日神社ノ南門、廻廊若宮ノ神樂殿	前代ニ同ジ	寢殿造起ル、裝飾少ク均齊ノ配置ヲトル。	
鎌倉時代	寺院	禪宗風ノ建築始マル、重ナル建物一直線ヲナス、素木造、床ハ瓦敷内外陣ヲ分タズ、割合ニ高シ、他宗ハ前代ノ風ヲ承ク 現存セルハ法隆寺ノ舍利殿、繪殿聖靈院、藥師寺ノ東院堂、唐招提寺ノ鼓樓、興福寺ノ北圓堂、三重塔、東大寺ノ南大門、良辨堂、般若寺ノ樓門、醍醐寺ノ經藏、石山寺ノ多寶塔、知恩院ノ勢至堂	前代ノ風ヲ承ク、現存セルハ宇治上神社拜殿	振ハズ	武家造始マル	
室町時代	寺院、書院	前代ノ風ヲ承ケ各種ノ樣式漸ク混和ス、現存セルハ法隆寺ノ南大門 興福寺ノ東金堂、五重塔、東福寺ノ三門、八阪塔	社殿ヲ複雜ニ結合セシムルコト始マル。	同上	書院造始マル、武家造、寢殿造折衷サル、庭園トノ調和工夫セラル、現存セルハ金閣、銀閣、東求堂、茶室ノ建築始マル	
桃山時代	城廓、書院	樣式ハ前代ヲ承ケ裝飾ハ豪華雄大ヲ極ム、現存セルハ法華寺ノ本堂、三井寺ノ金堂、妙心寺ノ三門、大德寺ノ三門、東寺ノ金堂、相國寺ノ本堂 清水寺ノ鐘樓、西門、高臺寺ノ開山堂	權現造リ始マル 現存セルハ 稻荷神社本殿、吉田齋場所大元宮、北野神社々殿、廟ノ建築始マル、ソノ風寺ト住宅トノ折衷ニ成ル現存セルハ 高臺寺ノ靈屋	現存セルハ 圓滿院宸殿、玄關 仁和寺ノ金堂、御影堂、大德寺ノ勅使門、金地院ノ方丈	書院造極盛、色彩ト彫刻トヲ多ク飾リトス、茶室大ニ發達ス。ソノ風流淡泊素雅、現存セルハ西本願寺ノ飛雲閣、書院、能舞臺、三寶院、高臺寺ノ時雨亭、傘亭	城廓建築起ル、現存セルハ 大阪城 彦根城、桃山城（御香ノ宮唐門、西本願寺ノ唐門、豐國神社ノ唐門、都久夫須麻神社々殿）
徳川時代	各種	總テ建築形式ニ流レ、裝飾ハ纖巧ニテ振ハザルニ至ツタ、現存セルハ 東大寺ノ大佛殿、清水寺ノ本堂、知恩院ノ本堂ソノ他、南禪寺ノ三門、大德寺、妙心寺、	前代ノ風ヲ承ク、現存セルハ 石清水八幡宮、八阪神社（祇園作リト云フモ寢殿造ヲ社殿ニ用ヒシナリ） 上下ノ加茂神社、春日神社、儒教建築起ル、廟建築完備ス、	前代ヲ承ク 現存セルハ 京都御所	纖麗トナル、現存セルハ 桂離宮、修學院離宮、大德寺ノ孤蓬庵、劇場建築起ル	前代ヲ承ク 現存セルモノ多シ

近畿地方 修學旅行案内 索引

ア

粟田口……五六
粟田山……五七
安國寺惠瓊の首塚……七二
阿彌陀が峯……一八八、一八九
安樂寺……一一〇
安樂壽院……一二五
朝日山……一五四
縣神社……一六一
縣祭……一六一
有王山……一八三
葵祭……一八六
足利尊氏の墓……二二一
赤堂……二二九
足曳の御影……二四三
嵐山……二四七
穴穂寺……二五四
愛宕山……二五五
愛宕神社……二五五
粟生光明寺……二五九
天の橋立……二七六
粟津……三〇九
安土城址……三二〇
淺茅原……三三三
秋篠寺……三四九
安康天皇陵……三五〇
天香具山……三六二
安寍天皇陵……三六三
敦盛塚……四〇七
阿漕が浦……四一一
明野ヶ原の飛行場……四一二

イ

伊勢國……五
インクライン……一〇二
猪飼敬所の墓……一一七
今熊野觀音……一三〇

稻荷神社……一三七
稻荷山……一三八
伊藤若冲の墓……一四一
井出の玉川……一八二
泉川……一八三
石田三成の墓……一九〇
一條天皇陵……二二三
伊藤仁齋の墓……二四四
石淸水八幡宮……二六七
石淸水……二七〇
石場……二八四
石山電車（大津電氣軌道）……二八五
一乘止觀院……三〇二
石山寺……三〇五
今井兼平の墓……三〇九
懿德天皇陵……三六三
生國魂神社……三九〇
一休寺……三九六
生田の森……四〇〇
一の谷……四〇七
一身田……四一〇
五十鈴川……四一六

ウ

歌の中山……七九
菟道稚郞子の墓……一五〇
宇治橋斷碑……一五一
宇治神社……一五三
宇治川……一五五
浮島の塔……一五六
宇治川發電所……一五六
宇治橋……一五七
宇治町……一五八
右近馬場……二一六
宇多天皇陵……二二三
牛祭……二三〇
太秦……二三〇
有智子內親王の墓……二四四
梅の宮……二五七
海舞鶴……二七五
宇良神社（浦島太郞祠）……二七八
打出の濱……二八五
畝傍山……三六二
宇治山田市……四一一

エ

永觀堂……一〇八

圓光大師納骨塔……一一六
英照皇太后陵……一二九
圓滿院宸殿……二八八
延曆寺……三〇二
永源寺……三二〇

オ

近江……五
大宮御所……一四
大谷大學……五一
白朮祭……六四
音羽山……七五
音羽の瀧……七八
大矢數……九一
應天門……九五
岡崎公園……九六
岡崎……九七
御山巡り……一三九
扇の芝……一六〇
大石良雄潛居の地……一六六
小野小町の宅址……一六八
小栗栖……一七六
織田信長の墓……一九〇
小野毛人の墓……一九九
大原の炭竈……二〇三
大原女……二〇三
小野山……二〇四
音無瀧……二〇七
御蔭神社（小野神社）……二〇四
小野宮……二〇五
大原御幸……二〇五
大原問答……二〇九
御土居……二一六
御室……二二三
御室の花……二二五
黃涉調の鐘……二二八
大澤池……二四〇
小倉山……二四四
大井川……二四八
老の阪……二五三
男山……二六八
男山八幡宮……二六八
男山陣址……二七一
近江八景……二八一
大津市……二八四
大津城址……二八四

大津の都の址……二八六
園城寺……二八六
小松が崎……二九二
沖の白石……二九七
沖の島（奥津島）……二九七
奥津島神社……二九八
奥島……二九八
近江の國分寺……三〇七
大阪軌道電車……三二三
岡本宮址……三五九
大神神社……三六一
大阪市……三八七
大阪城址……三九〇
大阪築港……三九一
大阪市立運動場……三九一
大濱公園……三九四
大倉山公園……四〇一

カ

桂離宮……二〇
上御靈社……三一
鴨川……三五
鴨川の橋……三三五、三三六
河原院……五一
傘亭……六八
神樂岡……一一二
海北友松の墓……一一七
桓武天皇陵……一四七
上醍醐……一七五
花山寺……一六三
勸修寺……一六九
鴨長明隱棲の地……一七八
笠置山……一七九
笠置寺……一七九
笠置行在所址……一八〇
笠置温泉……一八一
賀茂御祖神社……一八五
賀茂齋院……一八六
梶井宮址……一八八、二〇六
觀世清次の墓……一九〇
蒲生氏郷の墓……一九〇
片桐且元の墓……一九〇
賀茂別雷神社（上賀茂神社）……一九二
懸寄神……一九六
紙屋川……二一七
紙屋院址……二一七
花山天皇陵……二一九
龜山（龜の尾山）……二四六、四一〇
龜山公園……二四六
龜山殿址……二四六
龜山天皇陵……二五一
龜山城址……二五三
龜岡町……二五三
河陽離宮址……二六五
觀音堂……二八九
唐崎の松……二九〇
堅田の浮見堂（海門山滿月寺）……二九一
戒壇院……三〇四
關西線……三二二
開化天皇陵……三二五
春日の率川宮……三二五
春日神社……三三二
春日野……三三三
春日の若宮……三三四
春日山……三三五
景清門……三四二
元興寺……三四六
海龍王寺……三四七
橿原宮址……三六〇
橿原神宮……三六一
勝手明神……三七一
學文路……三八〇
片山線……三九六
川崎造船所……四〇二
神路山……四一六

キ

紀伊國……六
御苑……一五
京都御所……一三
京都守護職邸址……二四
京都府廳……二四
行願寺……二九
京極……一一六、三一八
枳殼邸……五一
祇園の枝垂櫻……六一
祇園社……六三
祇園會……六四
祇園……六四
木戸孝允の墓……七〇
清水寺……七五
淸水の舞臺……七六

京都恩賜博物館……一九〇
京都市公會堂……一〇〇
京都帝國大學……一一二
京都工藝學校……一一三
京都繪畫專門學校……一一三
祇園三女の墓……一一六
去來の墓……一一七、二四四
銀閣寺……一一九
敎王護國寺……一二一
喜撰山……一五四
木津町……一八三
木津川……一八三
京都植物園……一九二
京都府立運動場……一九二
京都府立農林學校……一九二
京都府農事試驗場……一九二
貴船神社……二〇〇
魚山……二〇三
北野神社……二一五
金閣寺……二一八
衣笠山……二二〇
清原夏野の山莊及墓……二二六
玉鳳院……二二八
妓王寺……二四九
清瀧川……二五六
清瀧……二五六
切戸の文殊……二七七
義仲寺……三〇九
衣掛柳……三二六
金峰山寺……三六九
金峰神社……三七五
紀三井寺……三七八
經が島……四〇三

ク

車返の櫻……一五
熊野神社……九三
黑谷……一一五
熊谷鎧かけの松……一一六
熊谷堂……一一六
九條兼實の廟……一三六
九條道家の墓……一三六
栗栖野の氷室……一七〇
恭仁京址……一八四
黑田如水の墓……一九〇
鞍馬寺……一九九
鞍馬山……二〇〇
鞍馬の竹切、同火祭……二〇〇
久米寺……三六三
九度山……三八一
楠寺……四〇一
草津……四一〇

ケ

建禮門……一一三
京阪電車……一三七
建仁寺……一七〇
月照の墓……一七九
蹴上發電所……一〇三
元政上人の庵及墓……一四一
京津電車……一六二、二八五
元慶寺……一六三
建勳神社……一八七
建禮門院陵……二一〇
兼好法師の宅址……二二六
桂宮院……二二九
見塔寺……二九七
源氏の間……三〇六
幻住庵址……三〇七
元明天皇陵……三四五
元正天皇陵……三四五
蹴拔の塔……三七五
外宮……四一二

コ

護王神社……二八
革堂……二九
五條大橋……三七
興正寺……五二
子安の塔……七六
高臺寺……六七
小督局の墓……七九、二四九
後白河天皇陵……九二
金地院……一〇七
後二條天皇陵……一一五
金戒光明寺……一一五
近衞天皇陵……一二五
後堀河天皇陵……一二九
光格天皇陵……一二九
孝明天皇陵……一二九
皇嘉門院陵……一三六
光明天皇陵……一四六
御香宮……一四六

木幡……一四八
興聖寺……一五三
漸米瀬(こめかしのせ)……一五五
孤蓬庵……一八九
光悅寺……一九〇
小堀政一の墓……一九〇
小早川隆景の墓……一九〇
樋樂院……{二〇七 三四五}
後鳥羽天皇陵……二〇八
後朱雀天皇陵……二二三
後冷泉天皇陵……二二三
後三條天皇陵……二二三
光孝天皇陵……二二五
廣隆寺……二二八
高山寺……二三六

五所堂……二三六
後嵯峨天皇陵……二五一
試みの峠……二五五
惟喬親王の宮址……二六六
古今傳授の松……二七五
籠神社……二七八
江若鐵道……二八五
弘文天皇陵……二八九
根本中堂……三〇三
興福寺……三二六
光明皇后陵……三四五
興福院……三四七
孝謙天皇陵……三五〇
鄢山町……三五四
後醍醐天皇陵……三七二

苔清水……三七五
高野山……三七九
高野口……三七九
高野の玉川……三八四
神戸市……三九七
皇大神宮……四一五

サ

堺町御門……{一三 一五}
祐(さも)の井……一五
鞘平門……三一
三條大橋……三四
坂上田村麻呂の墓……{六二 一六六}
西行庵……{六六 三七五}
三十三間堂……九〇
齋場所……一一

西寺……一二四
三夜莊……一四六
三寳院……一七三
三千院……二〇六
三光院……二一五
三條天皇陵……二一九
佐久間象山の墓……二二七
三尾……二三〇
三絕の鐘……二三四
西明寺……二三五
嵯峨天皇の離宮址(嵯峨御所)……二三九
嵯峨天皇陵……二四〇
嵯峨の松明及大念佛……二四一
三條西實隆同公條の墓……二四四
櫻井驛の址……二六七

三鍔鶴……二七四
西塔……三〇四
坂本……三一一
坂本城址……三一一
山王權現……三一三
山王祭……三一四
坂本三橋……三一四
西敎寺……三一六
猿澤の池……三二五
三月堂……三四〇
佐保川……三四四
西大寺……三四九
西院(法隆寺の)……三五五
櫻井……三六一
藏王堂……三六九

三鈷の松……三八三
堺市……三九一

シ

紫宸殿……一三
修學院離宮……二一
神泉苑……二三
所司代邸址……二四
聚樂第址……二四
相國寺……二六
下御靈社……三〇
新京極……三八
靑蓮院……五五
將軍塚……六二
時雨亭……六八
正法寺……{六九 二八九}

招魂場……七〇
成就院……七九
親鸞上人の墓……八二
新日吉神社……八九
白河北殿址……九三
白河殿址……九四
聖護院……九四
時代祭……九五
白川……九九
商品陳列所……一〇〇
鹿ケ谷……一〇八
俊寛の山莊址……一〇八
紫雲石……一一六
眞如堂(眞正極樂寺)……一一七
眞如堂の十夜……一一七
慈照寺……一一九
白河天皇陵……一二五
鹿跳灘(しゝとびのせ)……一五五
實如上人の墓……一六四
下醍醐……一七二
親鸞上人誕生地……一七八
下鴨神社……一八五
詩仙堂……一九六
聚碧園……二〇六
順德天皇陵……二〇八
勝林院……二〇九
證據の彌陀……二〇九
寂光院……二一〇
春光院……二二八
神護寺……二三二
釋迦堂……二四一
時雨亭址……二四四
十三參りの虚空藏……二四九
篠村八幡宮……二五四
時雨櫻……二五七
新舞鶴町……二七四
新羅善神堂……二八八
白髯明神……二九二
四明嶽……三〇一
正倉院……三四三
聖武天皇陵……三四五
新藥師寺……三四六
神武天皇陵……三六三
實城寺址……三七〇
新和歌の浦……三七八

四天王寺……三九〇
祥雲寺……三九三
四條畷神社……三九五
正遷宮……四一四
神宮司廳……四一七

ス

水道淨水地(京都市)……一〇四
瑞光寺……一四一
隨心院……一六八
朱雀天皇陵……一六九
朱雀大路址……二一四
角倉了以の墓……二四四
垂仁天皇陵……三四九
垂仁皇后陵……三五〇
綏靖天皇陵……三六三
諏訪山……四〇一
須磨……四〇五
須磨寺……四〇五
須磨の關址……四〇六
鈴鹿の關址……四一〇

セ

攝津國……三
清涼殿……一三
仙洞御所……一四
清閑寺……七九
千疊敷……一五九, 一七五
禪林寺……一〇八
泉涌寺……一二七
石峰寺の五百羅漢……一四一
千利久の墓……一九〇
赤山神社……一九六, 二〇四
蟬の小川……一九七
夕佳亭……二一九
清涼寺……二四一
棲霞觀、棲霞寺……二四一
勢多橋……三〇八
膳所町……三一〇
膳所城址……三一一
成務天皇陵……三五〇
關の地藏……四一〇
專修寺……四一〇

ソ

雙林寺……六五
疏水……一〇一
僧正谷……一九九

造幣局……三九〇
曾呂利新左衛門の墓……三九三

タ

内裡……一四
大内裡……一四
高瀬川……三九
高倉天皇陵……七九
大極殿……九五
談合谷……一〇八
第三高等學校……一一三
橘南谿の墓……一一六
大文字山……一一八
大文字の火……一一八
第十六師團……一四二
橘の小島が崎……一五五
田村塚……一六六
醍醐天皇陵……一六九
醍醐寺……一七一
醍醐の花見……一七四
橘諸兄の別莊址……一八二
玉水……一八二
棚倉……一八三
平重衡の墓……一八三
大德寺……一八八
鷹ヶ峯……一九一
高野川……二〇三
大極殿址……二一四、二六一、三二四、三四九
高尾……二三三、三三〇
高雄御所……二三四
大覺寺……二三九
檀林皇后の石塔……二四一
大悲閣……二四八
檀林寺址……二五〇
寶寺……二六三
田邊城址……二七五
多景島……二九七
建部神社……三〇八
多賀神社……三一八
大黒の芝……三二四、三四九
手向山八幡宮……三三六
大佛殿……三三七
大佛（奈良の）……三三八
多門城址……三四五
玉虫厨子……三五七
丹波市……三六一
談山神社……三六二
多武峯……三六一
玉津島神社……三七八
壇場……三八三
高津神社……三九〇
平清盛塚……四〇三
平經政の墓……四〇三

チ

頂法寺……四一
知恩院……五七
地主神社……七九
血天井……八三
智積院……八五
仲恭天皇陵……一三六
兆殿司の墓……一三七
乳守の藥師……一七八
直指庵……二四〇
奝然の墓……二四一
竹生島……二九四
竹生島辨天堂……二九五
竹生島觀音堂……二九六
長命寺……二九八
中宮寺……三六〇
竹林院……三七三
徵古館……四一七

ツ

月輪十二陵……一二九
通天橋……一三三
敦賀街道……二〇三
津崎村岡の墓……二四〇
月輪寺……二五七
都久夫須麻神社……二九四
頭塔……三四六
壺阪寺……三六三
綱敷天神……四〇六
柘植……四一〇
津市……四一一

テ

寺田屋跡……一四五
天龍寺……二五〇
天龍寺船……二五〇
天王山……二六二
天橋……二七六
轉害門……三三六、三四二
天壽國曼陀羅……三六〇

天理敎會本部……三六一

ト

同志社大學……二七
鳥部山……八〇
豐臣秀吉の墓……八八
動物園……九八
鳥居元忠の墓……一一四
東求堂……一二〇
東寺……一二一
鳥羽殿……一二四
鳥羽天皇陵……一二五
鳥羽の古戰場……一二六
東福寺……一三二
等持院……二二一
虎の子渡し……二二二
栂の尾……二三〇、二三一
栂の尾の茶山……二三七
渡月橋……二四七
渡猿橋……二五六
東塔……三〇四
飛火野……三三一
東大寺……三三七
東大寺の南大門……三三九
東塔（藥師寺の）……三五〇
東院（藥師寺の）……三五〇
唐招提寺……三五二
東院（法隆寺の）……三五八
道頓堀……三五八
堂島……三九〇
豐受大神宮……三九一、四一二
鳥羽町……四一九
鳥羽城址……四一九

ナ

梨木神社……一二八
南禪寺……一〇五
南禪院……一〇七
雙が岡……二二六
南蠻寺の鐘……二二八
長岡……二六一
長岡京址……二六一
長岡天滿宮……二六二
中舞鶴……二七四
成相山……二七七
成相寺……二七八
南鄕……三〇七

奈良市……三二一
奈良公園……三二六
南圓堂……三二九
奈良博物館……三三一
奈良坂……三四五
奈良ホテル……三四六
長峯の櫻……三六六
中の島、中の島公園……三九一
南宗寺……三九三
內宮……四一五

ニ

二條離宮……一九
二條城……一九
西本願寺……四四
西大谷……八二
若王寺……一〇九
新島襄の墓……一一〇
日乘上人の墓……一一四
如意嶽……一一八
仁孝天皇陵……一二九
仁明天皇陵……一四二
日本三古碑……一五二
西陣……二一二
西陣織物館……二一二
西陣京極……二一三
二條天皇陵……二二〇
仁和寺……二二三
二尊院……二四三
鳰の海……二八〇
二月堂……三四〇
仁德天皇皇后陵……三五〇
如意輪寺、如意輪堂址……三七二
女人堂……三八〇

ヌ

布引の瀧……四〇〇

ノ

乃木神社……一四六
野々宮址……二四五
農業館……四一八

ハ

蛤御門……一五
花園天皇陵……五六
初午詣……一三八
橋寺……一五一
橋姬社……一五七

芭蕉の墓……三一〇
般若寺……三四四
埴安の池……三六二
橋本町……三七八
橋本口……三七九
濱寺公園……三九四
芭蕉の生地……四一〇

ヒ

飛雲閣……四七
東本願寺……四九
東山、東山巡り……五四
東大谷……六六
方廣寺、同大佛……八五
百萬遍……一一三
悲田院……一三一
平田靱負の墓……一四五
平等院……一五八
日の岡……一六二
日野の藥師……一七七
日野資業の文庫址……一七七
平野神社、同夜櫻……二一八
牧岡八幡……二三一
廣澤池……二三八
琵琶湖……二八〇
比良山……二九三
比叡山……三〇〇
日吉神社……三一三
彦根町、彦根城址……三一七
氷室神社……三三二
秀頼御母寺……三四八
一目千本……三六六、三七三、三七四、三七五
鵯越……四〇七
日和山……四一九
樋の山公園……四一九

フ

佛光寺……四三
武德殿……九七
武德會本部……九八
藤原俊成の墓……一三七
藤森神社……一四〇
深草祭……一四〇
深草……一四一
深草の十二帝陵……一四二
伏見……一四三
伏見桃山陵、伏見桃山東陵……一四四

伏見桃山城址……一四五
佛光寺址……一六五
舟岡山……一八七
不退寺……三四七
佛足石……三五一
藤原宮址……三六二
藤尾阪……三六八
福原宮址……四〇三
二見の浦……四一八

ヘ

平安京……一五
平安神宮……九四
平城京址……三二三
平城天皇陵……三五〇
平家一門の墓……四〇四

ホ

法成寺址……二九
本能寺……三二
本願寺……三二
本法寺……三四
堀川……四〇
本國寺……五二
豐國神社……八七
法住寺殿址……九二
法勝寺址……九九
寶塔寺……一四一
鳳凰堂……一五九
法界寺……一七七
本阿彌光悅の墓……一九一
本涌寺の大黒天……一九五
堀川天皇陵……二二三
保津川下り……二四八、二五二
法輪寺……二四九、三一九
保津川……二五二
菩提寺……二五四
寶積寺……二六三
寶嚴寺……二九五
寶幢院……三〇四
保良宮址……三〇七
北圓堂……三二九
法華堂……三四〇
法華寺……三四八
法隆寺……三五五
法起寺……三五九

マ

圓山公園……六一
松虫鈴虫の墓……一一〇
萬壽寺……一三五
萬福寺……一四九
松ヶ崎……一九四
槇尾……二三〇、二三五
松尾神社……二五八
眞木和泉等招魂碑……二六四
舞鶴町、舞鶴港……二七四
將門岩……三〇一
松の寺……三九三
松風村雨の遺跡……四〇六
松阪町……四一一

ミ

妙滿寺……三一
妙顯寺……三二
妙覺寺……三四
壬生寺、壬生狂言……四二
妙法院……八四
耳塚……八六
見返の阿彌陀……一〇九
三箇峯（みつが）……一三八
三室戸寺……一四九
光秀の首塚……一七六
瓶の原、瓶の原離宮址……一八四
妙法の火……一九五
三宅八幡……一九八
妙心寺……二二七
明惠上人廟……二三六
源融の墓……二四一
妙喜庵……二六四
水無瀨神社、水無瀨離宮址……二六五
宮津町……二七六
三井寺……二八六
源義仲の墓……三〇九
神輿振……三一四
三笠山……三三五
水取り……三四一
三輪……三六一
耳無山……三六二
妙國寺……三九三
湊川神社……三九九
湊川……四〇二
御裳濯川……四一六
夫婦岩……四一八

ム

虫八幡……一九八
室町幕府址……二一二
無動寺……三〇四
六田……三六五
村上義光の碑、同墓……三六六

メ

メリケン波止場……三九九

モ

文殊九助等の碑……一四七
以仁王薨去の地……一八三
文覺上人の墓……二三四
本居宣長の宅址……四一一

ヤ

大和國……一
山城國……二
八阪神社……六三
八阪の塔……七四
矢の根門……七二
山崎闇齋の墓……一一六
山科別院……一六四
山城の國分寺、同國府……一八四
山城の一の宮……一八五
八瀨大原……二〇二
八瀨童子……二〇四
山内一豊の墓……二二八
山崎宗鑑の庵……二六四
八日市町、八日市飛行場……三二〇
藥師寺……三五〇

ユ

夢の浮橋……一三〇
雪消の澤……三三三
夢殿……三五八
結城神社……四一一

ヨ

養源院……八三
吉田神社……一一〇
吉田（卜部）家邸宅……一一一
吉田山……一一二
陽成天皇陵……一一二
賴政の墓……一六〇
淀町……二七一
淀城址……二七二
與謝海……二七六
横川……三〇四

横笛堂……三四八
吉野山……三六四
吉野神宮……三六五
吉水神社……三七〇
ラ
頼山陽の墓……六二
羅城門址……一二四、三二四、三五四
羅漢橋……二〇六
來迎院……二〇八
落柿舍……二四四
嵐峽……二五二
來迎寺……三一五
リ
龍谷大學……四八
靈山……六九
龍安寺……二二二
離宮八幡……二六四
レ
蓮華王院……九〇
蓮如上人の墓……一六四
蓮月尼隱棲の地、同墓……一九一
靈雲院……二二八
ロ
六角堂……四一
六波羅蜜寺……七二
六波羅……七四
六條天皇陵……七九
六勝寺址……九四
鹿苑寺……二一九
良辨杉……三四一
ワ
和氣淸麻呂墓……二三四
嫩草山……三三五
和歌山市、和歌の浦……三七七
王仁の墓……三九六
和田岬……四〇四

大正十三年九月十日印刷納本
大正十三年九月十五日發行

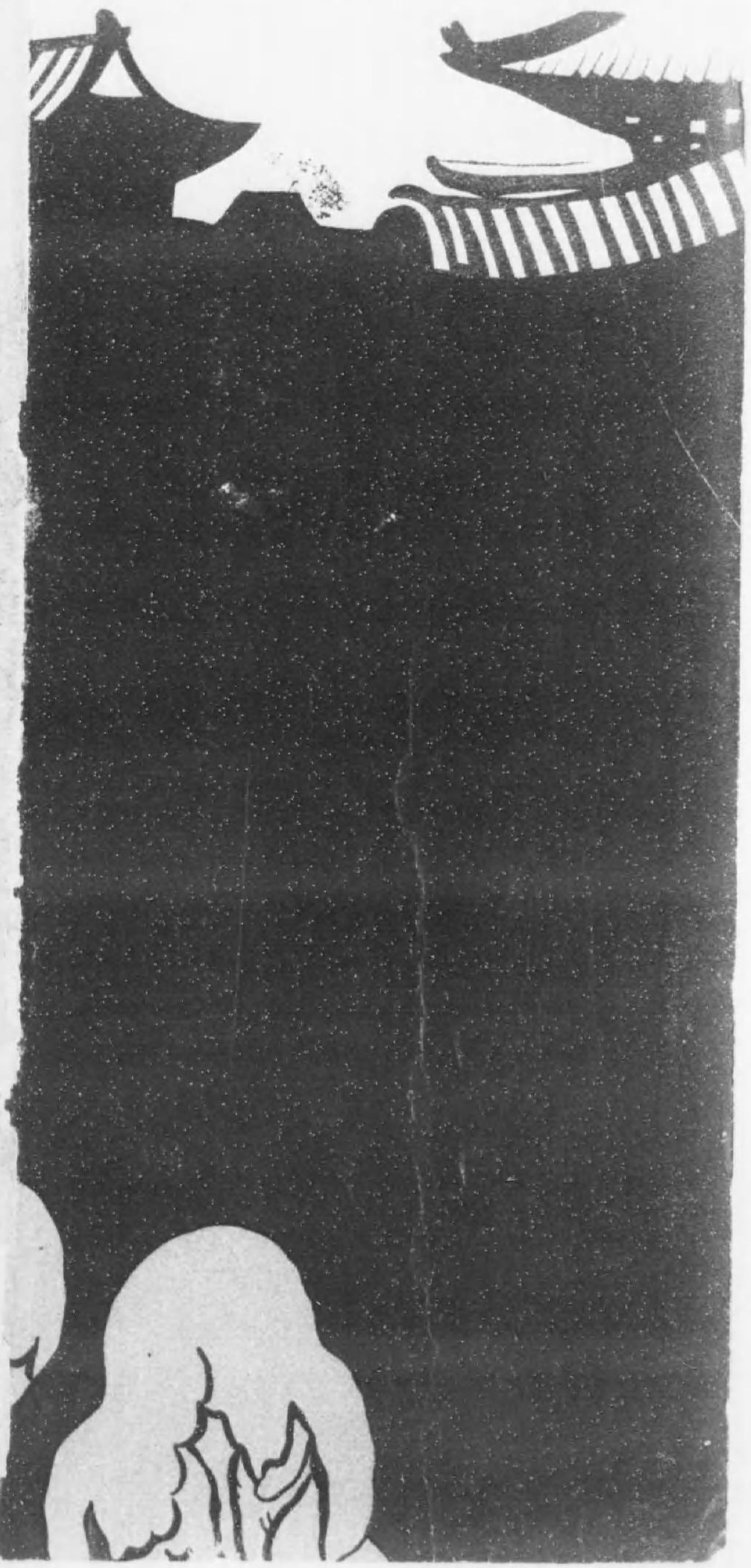
近畿地方修學旅行案内
非賣品

不許複製

著者　京都府立京都第二高等女學校校友會　右代表者　小澤信吉

發行兼印刷者　株式會社杉本書店　右代表者　杉本甚之助
（京都市寺町姉小路上ル）

發行所　京都府立京都第二高等女學校　校友會



532
65

終